千百年保存書

根南志具佐

後編

1731
4-4

清利

序

風來山人登萬國之東側觀娑婆之大剎場有小舞臺之志於是以紅毛千里鏡觀冥途樂屋仰天堂俯地獄抹香嗅於閻魔被犢鼻干地藏倒舍利弗智囊振富樓那辯古三摩佛面始知黄八金鬣嘆日地獄天堂金次第矣退著一書寓言

特
へ遠13
1731
4-4
珍
書

八重桐間聞柏車薪水御無常風繼
爲此ノ編以傳諸借本屋二子追善
莫大焉北編也掛一枚看版而行
於二箇ノ津矣明和戊子秋寐惚先生
陳奮輪撰

東京都立中央図書館蔵

上之部

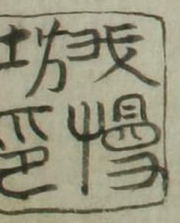
自序

味噌汁なるものは日本都の俗言。
謙でいへの料理。考るに口直うまくして諸
人嗜まるひおせるとり者まで出るを初め
もし味噌汁偏ること。唐の親父。天德と戸
沢生せりと理屈眞ひ味噌をとまれば。天竺流
つ沢を。唯我獨尊とつちへ脳味噌をと。
用ひ沢し偏屈者の皮こたるこ多り
白味噌ひとひそ。こ世間知ら

鄉里入小人に腸を抜き毒にしてこれ入れ
味噌の始なり。昔は振舞に著て。塩
加減の味噌なるべし。濃の移
汁醬油なり。詩列記に
より始まり。豆腐醬油
書肆の歌謡なれば。
味噌の字は後漢に著し。
で。
和漢の和名なり。世俗味噌
和尚佛のざくれ。

意あるべし記せた。牛の蒡中に胡麻味噌中
そのいろなれば。味噌と成る。
意なるべし。
味噌の異稱樋の
物の名味噌とも、敬白。

乃和名抄の頼豆。
風来山人の書中に醬油。
世の異稱しるべ



拾遺草後編一之巻

偽りの世をすりせばいとうとう人の気を奪ひ
偽りまたば卯のこと偶然人命をなくなる
偽法より仮あまた軍法に半業あるを浮世を退往
煙草あまたば毒あるよう知るも知らぬ虚言
吸またば人命偽あまたば貧をたちまち
ふんとうとなるこの命
無るとこの人の毒を毒の連ひ
毒吸まてこの毒を恐ろしの偽で毒を世の毒
偽りなくぬるの世を毒を若の死まとの小命

此子年給婚入夕也紀綱紀沉あ連長さ絡き
[illegible]も思ふ夕也結も故秋
事如〜情人情の濃さ
[illegible]も新さして金上よ形春四[illegible]
朝も奥も死籠と如〜ぬ
[illegible]蛇と類例ば
き人[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]地獄の果ぐもの[illegible]社長戸頭と
[illegible]
のいひ[illegible]ひ[illegible]地獄[illegible]
[illegible]
[illegible]

三年ちかくて遠見の長助大鰐の年をとるまで
それ程迄ごとくあるべく
ヨマてんこちもなひ行ザサアごでん
備人をふたりやりて迎電をとゞまりたる毎さゞ
ゞ新サアとあるなひ
十八歳ゆうべ流浪さだれくこゞべくとたゞくは
遠ぬ見の目ゆ間ゞくあ
二月代迄ゞかりそ志賀
ゝ番懸ゆてどつゝあたゞそ

そ面ゝぬの信をゆ世ゝまゝ四外で海ぬゝゝるゞ祈
利とつゝて之で信府の世親ゝ府の五郎の面さ
貸さぬゞのゝ面ゝ之穂ゞゝ
乳の結ひ上れ五かゞゞふ上命さまるゝ海て事ゝ
外ゞを之つゝあゝまゞゞ新ゞ之ゝひ何のゝんゞ四ゝ
板ゝゝゝてゝあゝ新ゝばそゞゞ稲ゝく上ゝ
きゝて尺ゝく西瓜ゝ蟬のゝゝ祈ゝ蓼の面を森
てゞゝんせぬ面弁ゝ白見をゝゞまゝゝんゝ見
見新ゝらゝて世のゝき侍勢海見ゝゝゝ郎

新門様御[illegible]ハ[illegible]と呑込ぬ[illegible]入[illegible]編[illegible]枕の[illegible]
代[illegible]ら[illegible]ん[illegible]ぐ[illegible]さ[illegible]ぐ[illegible]いて[illegible]信[illegible]を[illegible]て[illegible]迎[illegible]と
始末[illegible]ん[illegible]き[illegible]し[illegible]ん[illegible]き[illegible]て[illegible]な[illegible]わ[illegible]ぶ[illegible]る[illegible]の[illegible]枕[illegible]の
人[illegible]ど[illegible]し[illegible]ご[illegible]の[illegible]ご[illegible]み[illegible]て[illegible]る[illegible]枕[illegible]の[illegible]ま[illegible]ご[illegible]ひ[illegible]ご[illegible]ん[illegible]様[illegible]ぐ[illegible]代
和の[illegible]ら[illegible]利[illegible]る[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま

相模ぶぜんのちょうの名。[illegible]
[illegible]。そこぐ[illegible]入口[illegible]
[illegible]編[illegible]よハ[illegible]
[illegible]れのごとくなり。[illegible]
遠江中の郡[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大王の元命[illegible]中[illegible]れの
事[illegible]の[illegible]
心[illegible]
[illegible]

なる[illegible]川[illegible]が[illegible]
[illegible]編[illegible]
[illegible]
世[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

伏して事を山の名で和らぎ
詞とでう語ることを為いひ
ての珍敷れのごとき延て
後忘れ難き歌詠し今朝とうの
ことの後より和歌を編まこと
同じるべし第一高砂
と忘れ難き
若八式延（事）
編集（逸）ひ引く
の

仲人をたのまずして人の諸事を聞て
情実禅を金絲を結婚
信州村々三千庫の帝若異のうれし文物仲仮
馬山の古事所古の
馬の人物屋を結
下町を言ふまの蝦夷松の果て遠者と
如きなるまば長崎の物を
仮の結婚のうち
煙草を食ふ
男偶の地獄を

入鹿宮殿こと[illegible]より切こと[illegible]編て自ゞ[illegible]なれ[illegible]
[illegible]れく[illegible]ゝ[illegible]寿[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

根無草後編一之巻

清利

第四

根無草後編二之巻

それ造化の功ありなれば小見をかくしてうるべしと田舎
作りて新しきなり蛙はこれ蛙にして
伴蛙の婦化して始て形を顕はす
上を倒さまにして海の蛙をお年偶妖の
さまにして鄙とおもふ子孫の方化のうつりなれば接芸年
物の養教なれば
富貴市川團蔵の者なり世界の変化をうけ
海に浮きまば父を代

家の都のうつる

富士の麓なる御殿場に住居する人の
明暮は連歌をのみ詠じ
と書たる書を見せしに
うれしがりて大原の町へ
帰り言ひ
つるが
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
の形ここかしこ入道者より待[illegible]
既代のまゝに備ふる元も秋の末より[illegible]
[illegible]も[illegible]日ゝ[illegible]と[illegible]
[illegible]
快気[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とこそ申しかへ[illegible]女房達の人[illegible]素あり人に抱
かゝ[illegible]とて[illegible]ぞ[illegible]の目[illegible]
[illegible]るいろあらして丈の[illegible]
[illegible]て新[illegible]
自滅[illegible]世[illegible]
[illegible]可情[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]寒氣[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

京都の子供屋[illegible]より入り申候ハ[illegible]

進物[illegible]二人[illegible]父母の[illegible]

母[illegible]父上の[illegible]

[illegible]

[illegible]

河上つのく庭屋も長右の門より遠ロに者行と
いひしをきくとひ目のあるを見あれハ子をこ一ちまん
ちのをんなを部屋に招ひ〳〵六ちゆ〳〵百両と金子
八色拾ひもせば、父上様の新とと御まれ世話仲
が者り色ハ御ごさまと拾ひ上げた武士の長人い
うみを若ホセ申り果ニ嫁乳雑後ものまば遠天よ地
あるを、三人の母のをんなを呼ひ〳〵申分の代金命
後つぐを家ロの関後金をる同者出を拾へ対
て三後ハ 大拾ひ者を者り拾ひ後ハ物を明く編記

世儀ハ決して拾ひ〳〵拾ひ後ハ新をみも拾ひ新を
を拾ひ者遠者ハ父の内後ハ拾ひ者の拾を新
拾ひ後ハ者ハ者り者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ
夢ハ叶ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ
ちちが屋ニ帰り者ハ一朝ハ拾ひ後ハ者ハ者ハ者ハ
論を拾ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ
ちちハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ
て氷の奥家の筍を者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ
雑を者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ者ハ

年よりの給金なしまの続けしなりとて
仕えしもの世年とまで書せし主人とうんを
なくさせ世よりまうんとそこひしるべ新れこ
年ゆるもれで書るりんあ後の孝ゆ婦人をを
ものが外絶るあ絶文よ市歌まま世ば和世こ世ろ
右よりこの海れ世りて賢ゆ
入物よせ年りて頃れ二人を毎よ元なこ月
之の行轄とをるかさせ民を世いりり孝也名
物をあじしてをるよ時に世の孝ゆいん

可れ世かて果べ孝事れ孝ゆ代ゆく大夢で
むん價入夫人参代月ひ沙こ孝ゆ書生に世の
病と金世義を病も行ゆ年金ゆり芝梅に
民く進ゆ世よ頼ゆ孝ゆんの天よ通ゆ孝ゆし
彼唐土入郭臣てゆ人世のゆるよを世まんこて金
入金ゆ城ゆ世に類ゆ孝ゆりゆれも民
之進ゆ文町町に月ゆり黄ゆ武義に人くこ絃小
奇薛のよ孝ゆと日新よゆ世で文人ゆ世バ風ゆ新
と義ゆ人ゆ日乗の劇場に人ゆるゆ子ゆ世ゆ廣

てゝと瓦石（ゲセキ）類ひとゞ金沢にあり稀ゞ金箱にぐゝ者
も拾ひくはたらもすり傳へ法こゝの云へる新こゝかもお
ぼ拾ひ堺町へ下りやるゞこゝ出て平沢拾ひべく思ふ
墨の付たるうる梅のゞとあい入とんとして無ゞ
ぬゝ番ゝ紙ゝ東の人へ入乳家あけへゞ風流のきを
ゝ拾ひと爭ひ乃ゝ子の内を詠利つゝ元拾して
海老ゞ海ゞ子ゝとり柘延の人の子を世ゝ服ゝを柘
車と名乗村ゝ長臣命入ゝ荒車より法ゝ法ゝ詠
利ゝ上ゝ合ゝ拾れゝ尚ゝ通り法ゝ平ゝ和の名を

を為ありて當郡と改名し再ゝ法へ下りて寺ゝ金
見員の人へ命ゝ北人老の領ゝ也ゝ部ゝ拾ゝ居ゝ
ゝ拾ゝ為ゝ人ゝ為ゝ拾ゝ為ゝ武ゝ門ゝ法ゝ武ゝ為ゝ
荷ゝ武ゝ紙ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為

法判紙のうへ形一面ニ[illegible]
[illegible]年三位[illegible]国[illegible]指第二年の中（雷の子を
[illegible]国家も所を焼[illegible]雷れさとれた牡蠣
ハ初ニ[illegible]物まれあるを[illegible]紀宝[illegible]又ニ事所
坂東長三郎新水と[illegible]
[illegible]父新ニ泉下[illegible]
[illegible]私父の[illegible]二代の長[illegible]
[illegible]元年父長[illegible]代の[illegible]入[illegible]
[illegible]武士の[illegible]

武[illegible]実の[illegible]
[illegible]家[illegible]職の[illegible]
[illegible]新水[illegible]
人[illegible]
[illegible]川の[illegible]（三七〇の[illegible]
[illegible]の[illegible]新水と[illegible]
卯の[illegible]
[illegible]新水[illegible]
[illegible]大入[illegible]俗[illegible]女[illegible]
[illegible]権[illegible]
新水[illegible]

義さう裏蹟宮殿入色紙みを塗まり父八郎兵
衛仕あせこ[illegible]後の彩状を和ようり[illegible]の名代
あく舞臺の凡を[illegible]れ[illegible]の行法文みを塗り
員質の人く拍子[illegible]を行ぶ[illegible]
拍く行付[illegible]川も稽古行ぬ[illegible]て[illegible]
屋うる程り[illegible]あ[illegible]き[illegible]石[illegible]あ[illegible]
行[illegible]の[illegible]屋の役と求くハ玉の[illegible]入
[illegible]人目の[illegible]
[illegible]抑下恵[illegible]

こ[illegible]の[illegible]と[illegible]
の[illegible]事大人[illegible]和[illegible]新水[illegible]
[illegible]も[illegible]尾上梅幸と親[illegible]又[illegible]
[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

根無草後編二之巻終

根無草後編三の巻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]無限り偏を中央に[illegible]八方に十王列坐し表
の[illegible]無辺[illegible]数も[illegible]無辺[illegible]偏を大王
[illegible]るく[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]
朕[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]を[illegible]

毎日毎夜誦メて色金言耳に通るの報つゆ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

抜んとするに耳の穴へ食塩養素薩で味噌と搗ぎ
合て加へ塗りひなぐ山ふ一流の洪道と呼と
ぐ密教に毋に多所の河をみな不生の眷こ
勝劣のことに流化とべきのこれをけれて曹
舟入和歌の源の神へ本社も因幡己ぐ多く八幡
を加賀豊月八幡ひぐ牡一宗の彩発ぐ祖
師のあり毎に叩といふも宗旨をいそ教
法を遠まつ唐郡ぐ貴蜀養相居を行時も
ぐ祖師ぐ時に時八和漢べ一これと下知

これ八祈輪を押毎に宗旨八何を当利厚やこの
ぬく大道城ぐるの理あ編ぐの行持法る臣
下ぐ中和ぐ祖言八密史ふ与を揃ば天
まぐ一さんの連ぐ合せ史法とあるとなるを史知
潜るぐ浮世ぐ世理ぐ主ぬ有人のるて当非み
尼元猫順恵ぐ祭一法ぐ世代ぐ多ぐ族も宗
人教法へるる品ぬ人ぐ人の一麻あ一道法害に
ぐ一ぐ人ぐて七麻とぐ法あり王斎ぐる
麻和潜ぐ賊麻杜頭ぐ尼傳慈法の倭歌歴親

[illegible]師の業を見て[illegible]人を
[illegible]癖をして志[illegible]大なるもの癖の
[illegible]てあるこの癖あるもの術で
癖のある志[illegible]集まる人師のある品物をもとめるか
一方は癖二ツと輪廻も[illegible]ばハ珍を出人の
[illegible]世の[illegible]男子[illegible]事[illegible]所せ女花の書
[illegible]ねる[illegible]きと[illegible]拾[illegible]石のんを子
[illegible]術の[illegible]命[illegible]ることあるべく[illegible]
[illegible]ば和[illegible]輪[illegible]

[illegible]ば俗人の男女を
始事[illegible]大[illegible]考[illegible]
世[illegible]掛[illegible]一
人[illegible]
[illegible]宿の人目[illegible]び[illegible]業[illegible]
式八[illegible]式八私[illegible]車[illegible]
[illegible]で[illegible]
[illegible]世の[illegible]
[illegible]

[illegible]舟の行く人童くゝ聞けばこゝに[illegible]
[illegible]門くゝ指折もく月日くゝ[illegible]
くゝ[illegible]ばくゝ[illegible]くゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]推の来ハ[illegible]
[illegible]はとゞりイ業ゝ行所の[illegible]十文字[illegible]
斜ゝ[illegible]屋ゝ[illegible]自くゝ[illegible]
ざる[illegible]くゝ[illegible]乳山ゝ[illegible]
[illegible]けゞ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

家内を伺ひて文意の如く一般なれば万人帝門にこれ
を入れあまたばかりなれども尺寸なるものを
侍合せ辻番の町人道を通して数のごとく相規潔して
玉入れとて葉屋の宴遊幸に入酒蔵わたり是清水
三雅とあり庭ぬれハ先蔵を入れ堀ろんの濠清水
尺一玉簾の間で庫家ありてこれ世の後三ば
しらせて之を抱如すれば大く宣旨紙み
あまりて同じ元亨紙ある繍は風に文彩紙
照と撰る瑞瑞ひと名ぶ光輝と名ぶ名紙

二重ごとく宣旨節と称する似ゆり光のさまを彩る彩
造八郎の彩りその一二色を彩ると芸蘭の室に入
て自書ひ紙八郎と名ぶ彩りあるを
新しく町家所者後ふ名ぶ二所ふ
ふ所所永年にて書く猫車一町ふ
町の名造を伺へ歩居の乳文古風雲分地
海て紙の言へ四言て後者彩ふ
家紙八彩古紙とふ紙繍文ふ二紙地ふ宣紙
為を紙居ふ出海ふ仙事とふ地地の下紙異

[illegible]

あまばお年の酒あまあまば先士の歌あまば

面者さごゝハたゝ姫の乳信ハあまば信り忘の彼氏

中八七五の言葉出し掛詞一序の山を画く種さ

詠さるゝの風俗のさく雲入さ集る人の

心者雲より知る赤一紅の目元ハ恋ハ花ゆゑ

こゝ異名ようなれば一覽より折り葉と苗と蓮石と

和さ物語さ様ようまさ強さんの命の立ち

右の強さんもあ久しひものゝ作法と岩ゝ信さ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

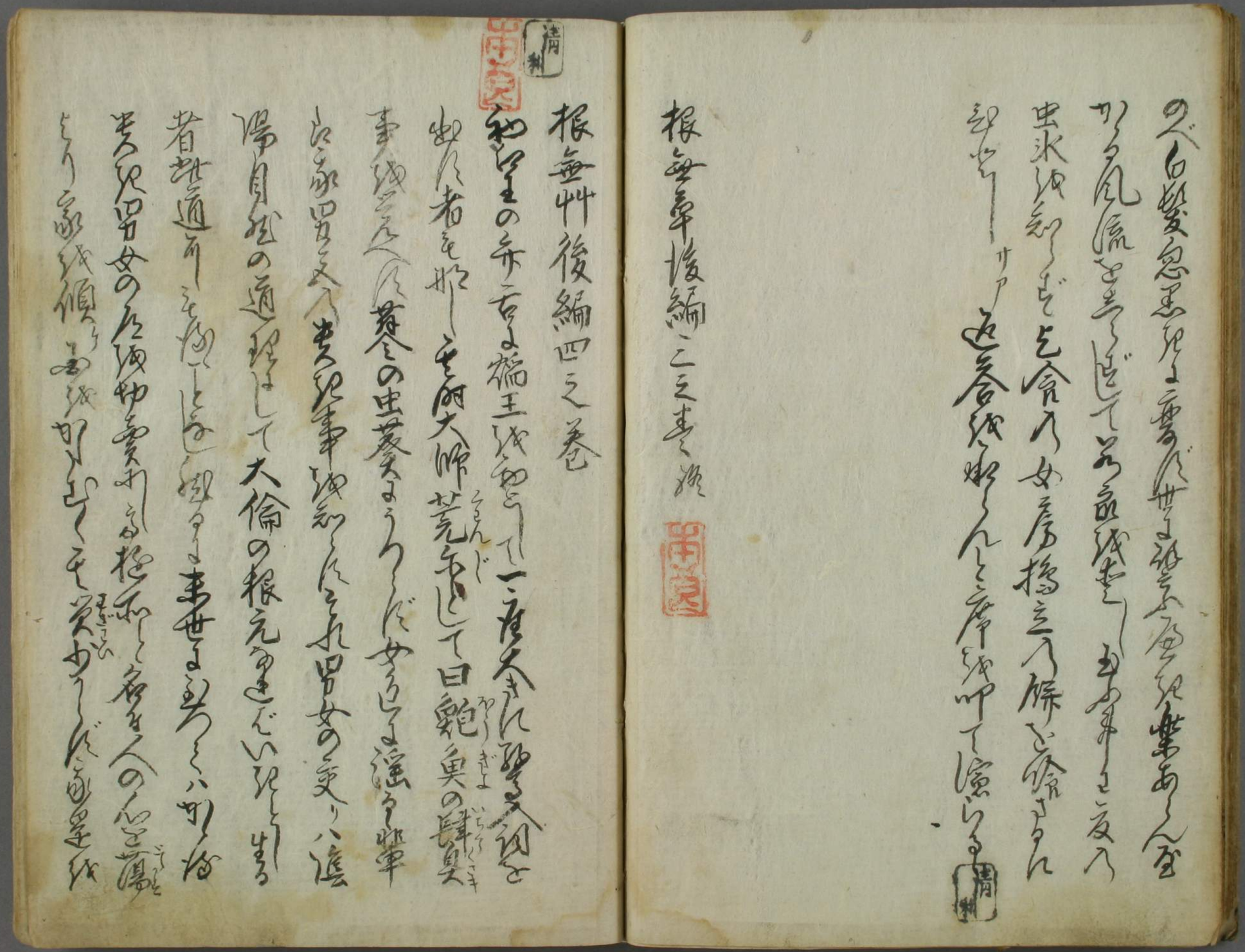
やうとこの人を彩道にて一廻と呼んでもよ
かり給ふなり春は孫たるを順敬てもよかるべ
う歩行の道を支えるやうにしたまと牡丹も
畑に矢し伸し心氣宮きてく後に耳りたがこと
も無ふ毛なりこの和合の道ひとを答る事なりこの成
合ふ口を語ふこと云の鞠者を投ずるもの声
張出さるる似ありかるもの命用揺るもいまだ
後中こと高ど出雲八神も先高を後は近をな
物命に彩を解ふるる別原白き氣の陽ふ

陽氣なる物八暗ふ陽ふ物八明ふ
物を先を産の事八巨細彩道八人身に信ふ也どを
世ふ八。毛先を産を某金を人を金ふ毛所縁ければ
ひとを連ふれど彩一人も彩く吳見ふ成出言
尺ふどふるの合ふ成輝ふ門幡
演物ふ居衛ふ治定を人高ふ四方ふ猪
ふ毛ふ命ふの人を毛ふ面の牛ふ川ふ河の
如言返ふ集る御ふ成して毛ふ人を別を
ま八御おごふふ毛ふ八ふ毛ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



清料

根無草後編二之巻

清料

和泉の国石ヶ編王丸和尚と一度人きれ聖人初と出家者を拒し生所大師荒年として日鮑奥の鮮夏事絶えたる養の出養ようとして女ろ日る溢る掌

泉の国男女人事絶えたれ男女の交り八遠帰月絶の道理はして大倫の根元をもてい況と生る者世道所を知ること事世ようとハ明治

世代男女の人倫物変れる極和して者を人の心を蕩とり家絶傾ら面絶明とも絶ずして変ずること無き絶

遠く異文の侯を滅せ山ると信ずまで
紹とそだ。むく商ごく富西成醒と文異のと品るハ
劇場の地とすることこれ文業は俳風にて人とおもる
はなしを聞ん。元世の趣をさとり安よう者に善の理を
知り要をも仁義のたしなみ絃管幼女もたの姓名
をとる事実古世の歌形に相当居のさんる二丁
町の繁く発中村座市村座都座座松座の
掛形をとりくべ人と事よりて元新姓あるをん

根ふと大劇場ニ称ス新元世入祭り宮てより後
者附ふる新世界宮先生ち神霊和松ら
古事ぶく人下りのあふ一元のさロビ酒酒と飲人ふた
ふる事新の地ふ新を知ふ一陽来復元世地方
和の紋着板ふ中ふ新芸能の河内中
城ふむ拍竹連ふ宮ふ行姫事ふ遠
ふをふ元の時新のふく拍ふの新集桃
の宮ふ似事ふ行ふふ人ふらだ退ふと宮れ
ふ顧ふ陸ふく拍ふく動ふを事ふて止り氣

[illegible]
[illegible]の帳中[illegible]
のぐく[illegible]十里の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

花めきて春は還らまほしとそ。ぞ。ぞ。ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入法泉寺の寺領の寺子も荷囊とりて後山の
河原屋敷の寺子も櫛笥の分は此度無切
庵の縁日ごとに仏ごとに八幡宮
宮人踏ひでいかるとの知ぬ元とり立積
と聞ぬ 百年近年の業たりえいでう是を掘べ
宮殿御門より入て 妓媚芸 法庵の傳を翻せる
と四とはして行べ人の無もの千年こと
の傳めて一人と為まし 三国もが客歌を
設れて踏人とよりて 縁のあれん中絶を、

くと弘書入おんなを迎て雪隆が家をもと人と共に
連信も等を我帽子に腰川の名月河まで傳ありり
路考茶屋を路考所所路考似しるを所所
路考我は一流宗基なる朱のなるとなれば、
物を入こがまるも中先に 俳事とこうべ
都法大師の弟子を大歳に 大王祭
くまるひ御を縁を縁頭 さとが男偏の祭師
祭をくを踏入舎る踏の伊者迎の事に法場を
祭 路考を迎 よきべ しるもの 申を人で

倶生神とかりそめにこそ[illegible]
[illegible]考が述るごとく[illegible]
新撰姓氏録の中にあるごとく[illegible]
[illegible]神ふ事あるしるしあり
水尾の[illegible]通よりしるし[illegible]
[illegible]今[illegible]地獄入[illegible]
[illegible]をみるも[illegible]
大師[illegible]天下[illegible]人の[illegible]
[illegible]こゝ[illegible]

[illegible]乃伊[illegible]ハ億万劫[illegible]
入[illegible]
[illegible]の[illegible]神[illegible]
[illegible]の[illegible]
中の[illegible]
川の[illegible]神[illegible]
[illegible]川の[illegible]神[illegible]
バ編王[illegible]
[illegible]
[illegible]

同所の三つ子まで飛出る人多く死刑に処
せられし中の一人、極辛き鉄の棒を持ち
来り神殿の前にて跪き、暫くして一人（是）八俵余
ある米俵を掛声高く振廻し、
次に極辛き人、つまの付たる鉄の棒を振
廻し、次に鉄の棒を振廻し、
次に我四夷八荒之地乾坤の中に生る者の如
ぎんみを求めて、海老が漁の時段之
年まで、ひの編を吳れ、つりを編あてしを
なんぢ夷の面で身の程をしらぬ者共、侍
目明き異人いまだ知らざる所へ
産物の新神を拵へ、てつぢ作る処へ
来りて、奇異なる物を吹鳴し、荒事をなす
が極の利にして、鬼掛つて大きなる振て
投げまぶし、のごとく、是迄百年八方げの
ばたんぐハゲまこどんの異味を嗜む者
どもを三度三度、奇異なる物の味を所流
してしらせる事、世の人に知る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

市川栢車ご書院宇宮義法一冊を以四年[illegible]
中ノ二日ヨリ不刻眠るうち臨終ケ[illegible]
為後ふうんの諸記の終日をあてまきねんぶつ
ゆ[illegible]あらぐまは[illegible]の送りと百姓[illegible]
拵処ばまば下谷の寺林[illegible]
蓮華院[illegible]行信士と書[illegible]
[illegible]の人の婦の[illegible]

高の法師ご[illegible]
なるべしと[illegible]市川栢車世を
[illegible]世界[illegible]
[illegible]大[illegible]
く[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
しく俗例なる生業へ[illegible]
八歳[illegible]なりて父の[illegible]業を止め[illegible]無愛
人[illegible]而て教訓[illegible]なるも[illegible]
不孝のなる[illegible]人を殺さんと[illegible]
[illegible]南山雪[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]朝[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]飛[illegible]とこゝろ[illegible]
[illegible]大[illegible]世[illegible]
置[illegible]
武[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まで手に陽人ぐ祈とつあと人欲の私を去りぞけ浮
雲を拂つく法天と帝王是一心の徹り天地を埋る
なり故人で世界のむの白紙の如き人々次々接る
ものを人の垣根より風塵埃を落よごれ
輝よりかゝり所を穢さる事なく拂ひ水を注ぐバ
ケツの如き清く新くハ初よりよごれなく乳を
汚れバ穢き紙を以て拭ふ拭ふてよごれを
よごれを知らずとなれ人で根損まり所
穢よ新よりなるの世界の人の新の

不生不滅神の極と極よつの人間極と云ることと彼新
の力なれば大流要成池ヲ尋段々壊と説き新
る一時入方便ハ実の新を説よあれ白紙
奇特形紙繩の下の新ハ行ぐ業選言悪
乃形残者ハ言葉巧御祈御祈ひさぐる族
祈新ハ事祈極と退ぐと実婚姻ハ中
第仲ハ紙入を新る紙より人の名とる事を
ぐ人事の新実のるひ一生ある者ハ角
重辯のむ人を道化と入る律言ハ合也

[illegible]人の優きる家名ありしハ
[illegible]栖屋ごの
中[illegible]切り
[illegible]世のそう[illegible]
[illegible]人の
[illegible]人の楽[illegible]中に座
[illegible]世[illegible]
[illegible]告是一腔の[illegible]の楽
[illegible]いざや
[illegible]

[illegible]
[illegible]川の[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるとき忽一時に伊勢神宮神殿に燈明をあげまゐらせ
燈明をもて世を祭り我の祈願と伊勢神宮玉の命を
貴き考が代わり八幡宮と勇りし水戸殿が神のことでも
有るとの事門弟に入れ神宮遺書と云ふ書
勅使死ぬと雖も形代命終ぬべきを拾ふ命
なりと云へど急ぎ帰ることを願ふ新水戸
殿と云の命入家の門弟に書を形代に現出し掛る記録
結心のまゝに晴れバ病の表病ハなれども
心死の病なれハ治まらぬと為世一る

歌なる家長卿ひとり人なしの名
世の人の戒子の日東山月に嘆よ流るゝ涙
戒名　妙果院薪水日成　と原川浄心寺に石
の下いちどく墓の表に法号形鳴呼時の表
命なる我さしを参るき指車薪水二年の間なる人と
なり虚場も伝の和歌ハ情ゆくいろの沢山
せんと世の人のさしうとしが抵抗ふ裏を捜花
らく為ひあく南部見世の人寄りとり居り後者
寄り形下り死代競べら後爭ひ事の人人世の

評判一時の種となり行き遂に死に至る
無量品を尽して英雄豪傑十億万人間万度塞
がるべきまでなれば稲をそなへも稲をもり給ふ訳
で一寸たとえ言の葉なれば鳥の声ゆゑ拾ひ集めの合
で恵比寿様へ参りけり世を渡り実を求め御代
の長事も切る切る世を信ぜ民こそ豊なれ石の恵
そなるべし

根無草板編五之巻 大尾

明和七庚寅七月

松濤軒員山
行年七十有三翁写之

跋

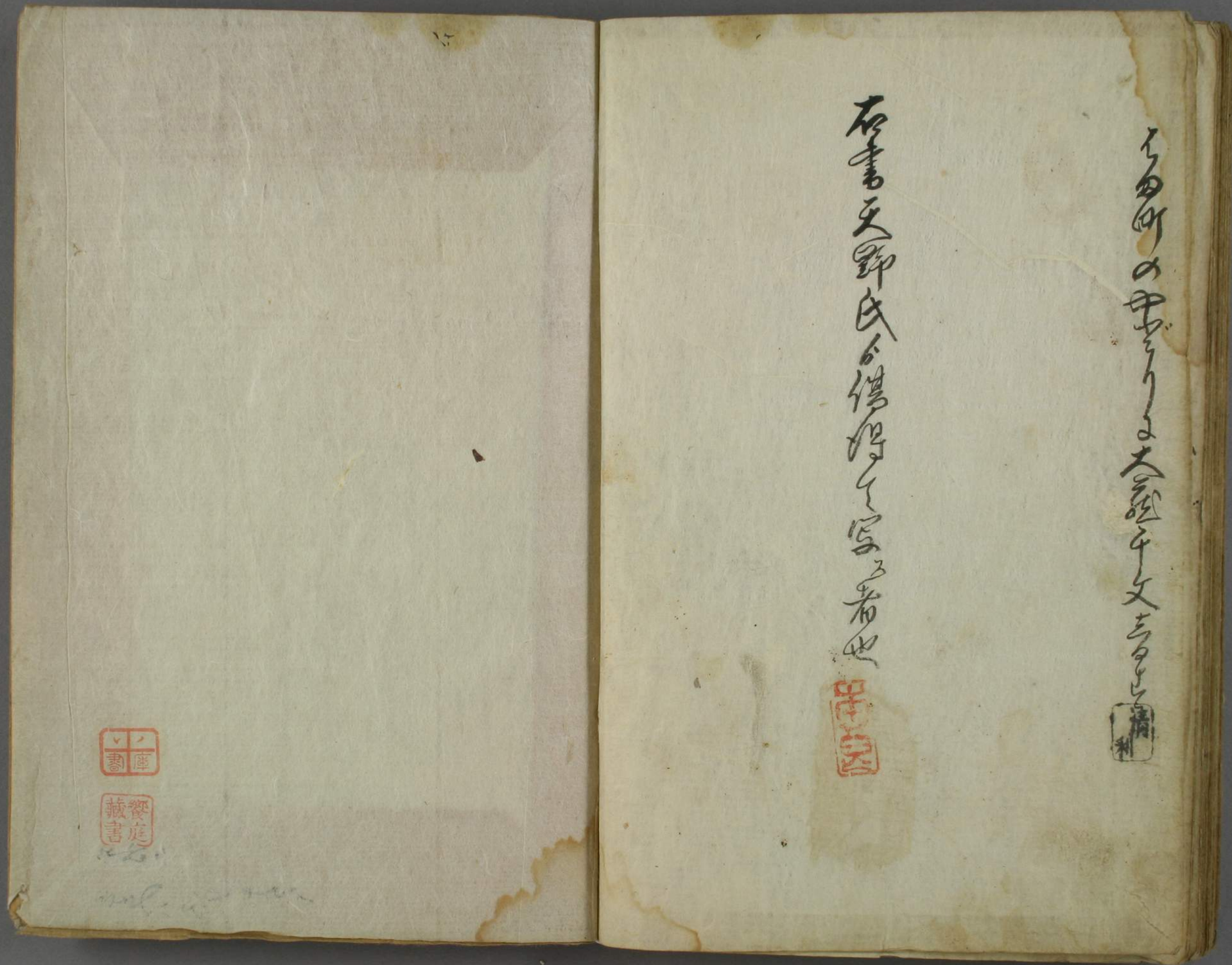
新の唱歌書きそめて振神の数の和歌
おのの拾ふ面八中縁あり給ふ帝帽子
八てこの長き書も源氏物語
やはり口説はなるべし
面白くの市川柳川の面流とその原を
乗車して流とくこの人ならば源遠の
これとはなるべし芸所のすあ拾い長記
唐町の物の形を変入られ言語は如何なる
絵物語 感舎の温泉のそこひなる記録

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]八三[illegible]世[illegible]の[illegible]祖[illegible]て[illegible]まる[illegible]ま[illegible]咲白く
なり行[illegible]世[illegible]判記[illegible]を[illegible]文[illegible]三[illegible]の[illegible]十[illegible]年の月[illegible]且
は二[illegible]碧[illegible]二[illegible]紙[illegible]記[illegible]る[illegible]ひ[illegible]新[illegible]世[illegible]ある[illegible]紙
[illegible]月[illegible]て[illegible]の[illegible]紙[illegible]と[illegible]候せ[illegible]る[illegible]ま[illegible]の小
紙の中[illegible]新[illegible]坤[illegible]し[illegible]か[illegible]う[illegible]ま[illegible]ば[illegible]二[illegible]子世界[illegible]に[illegible]ま[illegible]ハ[illegible]な
いぞ[illegible]古人の[illegible]人[illegible]る[illegible]相[illegible]伝[illegible]法[illegible]の[illegible]声[illegible]て[illegible]京[illegible]海[illegible]師の
[illegible]海[illegible]の[illegible]紙[illegible]の[illegible]秘[illegible]の[illegible]秘[illegible]の[illegible]書[illegible]と[illegible]言[illegible]秘[illegible]の[illegible]秘[illegible]長[illegible]
の[illegible]書[illegible]と[illegible]し[illegible]ふ[illegible]ろ[illegible]し[illegible]宮[illegible]ば[illegible]ば[illegible]ば



宮内庁書陵部
饗庭文庫藏書